



「今こそ考えよう 農村資源で地域再生エネルギー」講演会 のお知らせ

今回 阿蘇フォークスクールにおいて、「今こそ考えよう 農村資源で地域再生エネルギー」講演会と題して、ドイツ人の講師をお招きして、ドイツのバイオエネルギー村プロジェクトについてお話をさせていただきます。

【バイオエネルギー村とは】

ドイツで初めて電気と熱を自給する農村の集落が誕生したのは8年前のこと。原料は集落内で発生する家畜の糞尿や規格外の穀物、木のチップなどです。「ウランと原油は海外にある、家畜糞尿や木は村内にある」をモットーに、地域にある資源を使って地域に必要な電気と熱を生み出すプロジェクトが「バイオエネルギー村」なのです。最初のバイオエネルギー村が成功したことで一気に期待が高まり、ドイツ国内で既に80近い農村の集落がエネルギーの自給をしています。プロジェクト成功の鍵は何か。広がり鍵は何か。福島原発での事故から1年。国内にある資源を活かしたエネルギー供給について考える時が来ています。バイオエネルギー村プロジェクトを推進してきた住民のリーダーがこれまでの経験を通じて、農村でこそエネルギーの自給が可能であることをお話して頂きます。

【講演内容】

- ・ バイオエネルギー村プロジェクトとは
- ・ バイオエネルギー村の誕生から広がりまで
- ・ ドイツでも最初からうまくいくわけではない
～住民意識の変化について～
- ・ プロジェクトの障壁と成功の鍵
- ・ 日本の農村における可能性

【講師プロフィール】

ハイコ・ローエンゲル氏

バルリッセンバイオエネルギー村プロジェクト役員。バルリッセン集落の住民で元銀行マン。住民の関心が薄れた時にも、このプロジェクトの意義を信じて推進してきた。プロジェクトを通じて、バイオガスプラントメーカーの経営コンサルも手がけるように。再生可能なエネルギーの利用を目指す農村集落のコンサルティングを主な業務とするニューエナジー社を設立。代表取締役。成人教育やネットワーク作りも手がける。

【コーディネーター兼通訳】

大津 愛梨氏

NPO法人九州バイオマスフォーラム副理事長

ミュンヘン工科大学大学院林学課修了。

2002年10月帰国後、夫の郷里・阿蘇へ移り、就農した夫を手伝う。

今年1月のドイツ視察研修のコーディネートをを行った

場所 阿蘇フォークスクール

日時 4月25日(水曜日) 午後18時30分～

参加費 無料 (講演後に懇親会を予定しています。参加費1,500円)

NPO法人阿蘇フォークスクール

〒869-1601 熊本県阿蘇郡高森町上色見1390-1

TEL/FAX 0967-62-0027

E-mail aso-folkschool@cotton.ocn.ne.jp

HP <http://asofolkschool.eco.to/>